

貝リングル情報

(アコヤガイ・立神浦 赤崎)

R5-22号

データ提供：(株)ミキモト

問い合わせ先：三重県水産研究所 養殖・環境研究課

TEL 0599-53-0016 FAX 0599-53-2225

【概況（10月3日 0時～10月4日 0時）】

- 測定している4層でヘテロカプサに対する反応『弱』が確認されました。
- ヘテロカプサは、10月2日の立神浦赤崎における採水サンプル1mLあたり、0mで32細胞、2mで50細胞、5mで50細胞、B-1mで18細胞が確認されました。
- いずれの水深においても、9月27日～10月3日の期間中、一時的に『中』がみられることがありました。

【おしらせ】次号は、10月11日（水）の予定です。

【今回の測定結果】

水深	ヘテロカプサに対する反応※	備考
0m	弱	9/28(6-9時), 30(11-12時), 10/1(9-17, 20-24時), 2(0-7, 10-17, 20-24時), 3(0-5, 10-13時)にヘテロカプサに対する反応がみられました。
2m	弱	9/28(8-9時), 30(12-14時), 10/1(9-23時), 2(0-7, 9-24時), 3(0-17時)にヘテロカプサに対する反応がみられました。
5m	弱	9/27(5-15時), 28(5-13時), 30(8-17時), 10/1(7-17, 20-24時), 2(0-7, 9-24時), 3(0-14時)にヘテロカプサに対する反応がみられました。
B-1m	弱	9/27(5-16), 28(5-13時), 30(8-16時), 10/1(6-17, 20-24時), 2(0-7, 10-24時), 3(0-14時)にヘテロカプサに対する反応がみられました。

※ 指標と殻体運動（波形の例は、WEBに掲載しています。）

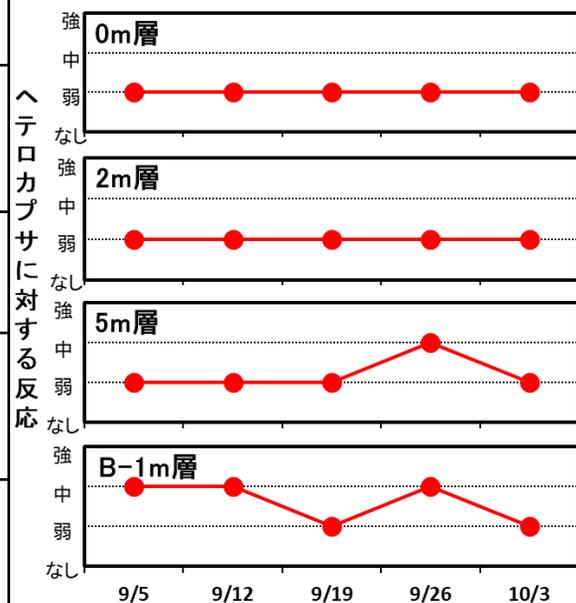
強：連続的なスパイク波形と閉殻がみられる。
⇒ 極度に強いストレスがあり、短時間でへい死の危険がある。

中：連続的なスパイク波形がみられる。
⇒ 強いストレスがあり、長く続くと衰弱・へい死の危険がある。

弱：スパイク波形の集中が時折みられる。
⇒ 貝にストレスがかかりはじめる。垂下層の調整や避難の検討を。

なし：応答なし ⇒ 影響なし。

【直近の状況（5回分）】



●本紙について

- 英虞湾における赤潮被害の軽減を目的とし、(株)ミキモトが開発した貝リングル（二枚貝を用いた生物センサー）の情報を提供しています。
- 毎週水曜日に発行します。また、臨時で発行することがあります。

●貝リングルについて

- 二枚貝の殻体運動（殻の開閉）をセンサーで測定し、貝の生理状態（赤潮・貧酸素などの影響）を陸上で把握できます。
- 英虞湾では、有害プランクトンのヘテロカプサ・サーキュラリスカーマの影響を特に重要視しています。（センサーは、アコヤガイにつけられています。）

●センサーの設置場所と水深

- 湾奥部（立神浦赤崎）の0・2・5・B-1m層に設置しています。
- B-1mとは海底上1mで、赤崎では約7mです。

●利用上の注意点

- 海況は、場所・時間・水深で異なります。本情報は湾全体のアコヤガイの生理状態を、必ずしも示すものではありません。
- 本情報だけでなく「アコヤ養殖環境情報」等で、プランクトンの出現状況や海況を把握し、被害対策をしてください。

